

東側遺跡現地説明会資料

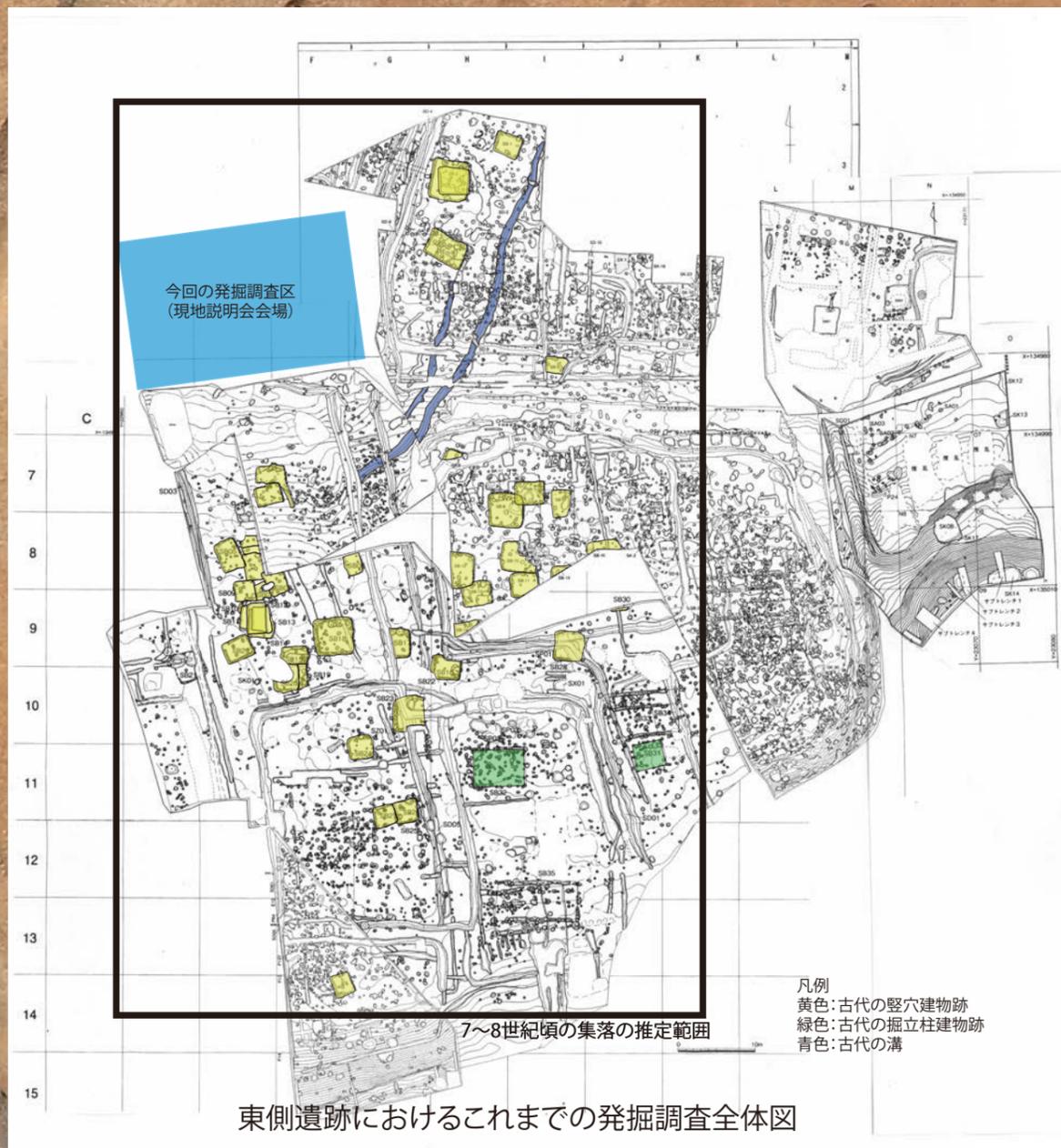
令和2年8月29日(土)

- ◆所在地:愛知県豊橋市牛川町字東側
- ◆調査原因:牛川西部土地区画整備事業
- ◆調査主体:豊橋市教育委員会(豊橋市文化財センター)
- ◆調査機関:株式会社 島田組

東側遺跡は、豊川に注ぐ眼鏡川と神田川に挟まれた緩やかな台地の南向き斜面に広がります。これまでの発掘調査により、東側遺跡は古代の集落跡であったことがわかっています。今回の発掘調査区は遺跡の北西端にあたり、7～8世紀の竪穴建物跡などが見つかりました。これにより、東側遺跡の古代集落は、全体で東西約60m、南北約110mの規模で、北側の一段高い台地との境に溝が走っていることがわかりました。

今回の発掘調査で見つかったのは、7世紀終わり～8世紀はじめ頃の竪穴建物跡4基と廃棄土坑(ごみ捨て穴)1基です。竪穴建物跡の内、3基には竈(かまど)跡と考えられる焼土が認められました。このほか、わずかですが中世、近世の遺構も見つかっています。8世紀になると、東側遺跡の古代集落は西にある西側遺跡へ移動したと考えられます。

今後、整理作業を進める中で、古代の牛川西部地区の歴史がより明らかになることでしょう。



矢印は基本的な見学順路です。順路にしたがってご見学ください。竪穴建物跡、廃棄土坑周辺では、職員から簡単な説明があります。遺跡の雰囲気を感じて頂けると幸いです。



調査区の南西部で確認された
竪穴建物跡 1

奥に見える焼土は竈跡



調査区中央で確認された土坑群

まとまった遺物は出ていないが、
須恵器の甕や高坏が確認されている

集落内の廃棄土坑（ごみ捨て穴）の
可能性がある



調査区の南西部で確認された
竪穴建物跡 1 の竈跡



廃棄土坑から出土した、
須恵器の高坏や坏の破片



調査区の南端で確認された
竪穴建物跡 3

手前の赤色で円状のものは竈跡



中近世の遺構もわずかながらに
見つかりました

調査区中央で確認された近世の土坑

5枚重なった銭貨が確認されている